

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

平成2年8月15日
第9号

門連結成三十周年記念事業第一弾

身延理事會に於いて 祖廟奉告式厳修さる

門連結成三十周年記念事業の三本柱のうちの第一弾である身延理事會においての祖廟奉告式が、六月十三日各派管長親下参列のもとに厳修された。関東地方は既に梅雨に入り当日の天候が心配されたが、前夜来の雨も止み、身延山特有の蒸し暑さも苦にならぬ意義ある一日であった。

今回の身延理事會は日蓮聖人門下連合会が結成されて三十周年ということで、各派管長親下、各地区門連にも御案内申し上げ、多数の参加をみるに致った。

午前十一時五十分、唱題行列にて常唱殿前を出発し、御草庵跡へ向かった。

御草庵跡にて法味が言上され、続いて今回の柱でもある祖廟での奉告式へと進んだ。

祖廟での奉告式では、法華宗真門流管長上田日源親下、本門法華宗管長中村日宣親下御参席のもと、伊藤通明新理事長導師によりそれぞれ色



祖廟での記念法要

今般日蓮聖人門下連合会各型の御推薦に依り、理事長に就任いたしました伊藤通明が、重責に身のひきまいる思いでございます。

輝かしい三十年間の門連活動をかえりみず、それぞれの時代に即応した日蓮門下としての理念に基き、積極的な対外活動の展開は目をみはるものがございます。特に門下連合会が「祖廟中心」の理念によって身延山の祖廟に於て結成され、異体同心の誓いを基盤として固い連合の意識に結ばれた事は、日蓮聖人門下大同団結の為、偉大な一歩であったと存するものであります。

就任にあたって



門下連合会結成以後主たる活動として、全日本仏教会発行の「創価学会の批判的解明」に対する厳重抗議を全仏当局に行い、陳謝、廃刊に至らした事や、昭和四十年五月、日比谷公会堂において「日蓮聖人門下連合大講演会」を行い、異体同心して正法を顕揚した熱情は今に記憶新たなものがございます。

門下連合会結成以後主たる活動として、全日本仏教会発行の「創価学会の批判的解明」に対する厳重抗議を全仏当局に行い、陳謝、廃刊に至らした事や、昭和四十年五月、日比谷公会堂において「日蓮聖人門下連合大講演会」を行い、異体同心して正法を顕揚した熱情は今に記憶新たなものがございます。

近年の活動としては日蓮聖人第七百遠忌共同事業であります。門下連合会が企画実行した「日蓮聖人展」「日蓮聖人劇」「オラトリオ日蓮の作詩、作曲、演奏会」「日蓮聖人門下青年の船」はいずれも好評を博し、次代を荷う若き青年達の智慧と活動力をも結集し、門下連合会が更に大きく飛躍発展することを願ってやみません。

大陸で発見された海外布教の先駆者日持上人の遺品等を拝観した。更に祖師堂において法味言上後、水鳴楼にて日蓮宗管長・身延山久遠寺法主岩間日勇親下より御挨拶を受けた。

午後二時五十分、身延山短期大学図書館会議室を会場として理事會を開催。伊藤通明理事長の発声にて玄題を三唱、挨拶をされた。会議に先立ち、望月幹事より伊藤通明新理事長の就任承認に関する議案が提出され、全員賛成をもって理事長就任が承認された。

以後、伊藤理事長が座長となつて議事を進行した。

まず、澁谷直城理事長の門連顧問就任の推薦についての討議がなされたが、以前より退任された理事長が全員顧問に就任されているということになっておらず、また、顧問就任に関する規定も明文化されていないことになった。

出席理事各自の自己紹介の後、柴田幹事より平成元年度事業報告、長谷川幹事より平成元年度決算報告及び、平成二年度予算案が説明され、それぞれ承認された。

次に地方門連に関する件として、

大阪門下懇話会の伊丹栄彰理事長より、五月に平成二年度の総会を開いたこと、門連への加盟は時間の問題であることなどが報告された。

北海道門連の白部健順理事長からも、門連への加盟は内容が整いしだい(二三年後)になるであろう旨の報告がなされた。つづいて望月幹事より「門連だより」発行に関して、現在第九号の原稿集めが始められている事が報告された。

門連結成三十周年記念誌発行に関する件については大橋邦正常任理事より報告があった。当初二八頁・二千字を作成し、この費用には基本金の百万円をあて、各派からの負担をなくすという方針でスタートしたのであるが、見積りを取った段階では約六十万円が必要ということになり、平成二年度予算中予備費より三十万円を充当したとしても尚三十〜四十万円の資金不足が生じる。この不足分について種々意見を交換したが、結局、各派の責任において一派三万円づつ(一口一万円として三口)の協賛金を集め、記念誌には各協賛の名前(社名)を並べて載せるという方向で進めることで意見の一致をみた。この協賛金は九月末日までに集めるものとし、各理事が窓口となることになった。

また、記念誌作成の実作業を担当する「門連だより編集委員会」に対して近々相談すること、原稿のメットは九月十日とすること、記念誌中の座談会の人選については大橋常任理事に一任するということなどが確認された。



30周年記念法要集合写真

引きつづき京都門下連合会の松下日肆理事長より現状報告および予定の報告がなされた。二月十六日御降誕会、四月二十六日開宗会、八月二十八日の夏期大学の開催と次々に報告され、更に十一月二十八日の門連結成三十周年記念事業の一つである京都の本門法華宗大本山妙蓮寺に於いて開催予定の京都理事會へと話が進んだ。現在の予定では、法要後、記念写真撮影、西陣の錦織りを見学、さらに妙蓮寺近くのホテルにおいて懇親会を開くというものである。また、藤田尚慈副理事長が中心となつて、各派より一名づつ委員を選出し、京都門連の歴史をまとめる作業に入ることが報告された。

午後四時二十分、時間を延長された理事會は伊藤通明理事長発声の玄題三唱をもって閉会した。

会場を下部温泉・ホテル守田に移し、身延山久遠寺法主岩間日勇親下をはじめ、身延山久遠寺総務藤井教雄師、身延山役員御参加のもと、午後六時三十分より懇親会が催され、ここに平成二年度身延理事會は無事終了した。

日蓮聖人門下連合会
発足三十周年記念法要報告文

慎み敬つて本日の吉辰を卜し、高祖日蓮大聖人御廟所御前に於いて日蓮聖人門下連合会発足三十周年記念法要を修し奉る。

嗚呼この値遇の大縁、何を以てか慶事の誠を表し、何を以てか洪恩の涓埃に擬し奉らん。

伏して惟みるに昭和三十五年日蓮聖人門下連合会発足をみる。爾來星霜三十年、今日に至り赫々たる足跡を残す。

これひとえに日蓮聖人門下、心を一に結集祖思に報謝し、共に協力事業完遂に向け一致団結の浄業の賜ものなり。更に今日に至り来るべき新世紀にむけ大きく飛躍し、時代即応の活動を推し進める秋也。

以て真の門下として死身弘法に精進し、僧俗一体となり祖意を顕揚し、新世界、新世代に対応しうる活動を目指すもの也。

維時 平成二年六月十三日
日蓮聖人門下連合会理事長
伊藤通明

從地涌出

遠く奈良朝の昔より護国の經典として篤く尊信された仁王護国經には「国土乱れん時は先ず鬼神乱る、鬼神乱るが故に萬民乱る」と説く。国土の乱れる時には、先ず以て鬼神が跳梁する。鬼神が跋扈するから人々の行動が乱れ、人々の行動が常規を逸する結果として国土が荒乱する、というのである。

◆今、この「鬼神」の二字に「思想」の二字を置きかえてみるなら、国家が思想的に惑乱することにより国民の行動が狂乱に陥り、人々の行動が狂乱に陥るから国土が荒乱することは否定できない。ならば、国土の不祥事を払う根本は、国家を思想的に更生せしめることの外にならぬ。

◆日蓮聖人が「立正安国論」を時の鎌倉幕府に建白された御主張もここに在る。安国を願うならば明教を国家に樹立することが第一であると法華信仰の大事を叫ばれたのである。正に「立正」であり、立正であつてこそ始めて「安国」は自ら来ることになる。

◆国家が思想的に更生しないので国土の災害をのがれんとしてもそれは上流を濁して下流を清めんとするが如きもの、いわゆる百年河清を待つ愚である。

◆たとえ台風豪雨地震の如き自然の災害であっても、国民の心の持ち方によってその被害を最小限に防止出来るものである。数多ある社会問題の多くもまた然りである。

◆災起り、難起るの如き痛ましい報道の、日日余りに多きことは、人々の思想の惑乱であり、人の世の災禍の根本である。今こそ聖祖の御主張「立正安国」の実践を忘れてはならない時である。

(和)

シリーズ門下御本山巡り 8

国柱会本部・妙宗大霊廟

宗風革新・祖道復古の大義を唱えて近代の仏教改革を推し
進め日本国体を開闢した田中智学居士の国柱会を訪れる。



国柱会本部

東京都江戸川区一之江6-19-18
〒120-0033 (六五〇) 七一一〇
①〇三(六五〇) 九九八〇
▼地下鉄都営新宿線「一之江」駅
下車、徒歩八分
▼JR総武線「新小岩」駅下車、
都バス①番乗場で東西行に乗車
「一之江」目下下車、徒歩三分
▼車は、首都高小松川線「一之江」
より三分

申孝園

国柱会は在家仏教の教団で寺院は
なく「本山巡り」というには合わない
が、全国の組織(71の支局)の中
核となる国柱会本部を紹介する。

国柱会本部が所在する庭園は申孝
園と称し、東京都江戸川区一之江に
あり、昭和三年田中智学先生によつ
て造園された。その名称は、「日本書
紀」の神武天皇のお言葉「用て大孝
を申べん」から付けられたもので、
孝を行ずる庭という意味である。

申孝園の敷地は一六、五〇〇平方
メートル(約五千坪)で、国柱会本
部、妙宗大霊廟、有文館、申孝園ロ
ータスヴィラ(七階建の有料老人ホ
ームで現在増築中の新館には天体観
察室ができる)その他の建造物がある。
多くの樹木が茂り、池あり、山
あり滝あり、緑の中に四季の花が咲
く。桜も多く、桜まつりが開かれ地
元の名所になっている。

園に入ってロータスヴィラの前を
通って参道の左側に、「申孝の庭に
克忠の花開く」という碑がある。参
道をすすむと左前方に「立正安国」
の石碑(高さ5.3メートル)が巍然と
して建っている。「日本一の聖語碑
を」ということで田中智学先生が揮
毫し、昭和十二年に建立された。高
山樗牛の「吾人はすべからず」の碑もあ
る。聖語碑、銘言碑など、園内には
四十五基に及ぶ碑が建てられており
「土石說法」を続けている。

本部講堂の前庭の築山には、「田
中智学先生示寂霊域」の碑が建てら
れている。先生は、昭和十四年十一
月十七日、この地で帰寂された。行
年七十九歳。ここで先生の業績・略
歴をたどってみよう。

田中智学先生の業績

田中智学先生は、文久元年(一八
六一)日本橋に、法華の強信者医師
多田玄龍居士の三男として生まれ、
本名は巴之助。幼くして両親を失
い、日蓮宗の妙覚寺(申孝園に隣
接)智境院日進師に随身、得度して
智学の名を受ける。飯高権林を経て
二本榎の大教院に学んだが宗義に疑
問を抱き、明治十年妙覚寺に帰る。
御妙判、内外の経書を独学研鑽して



「立正安国」の石碑

開悟し、同十二年、十九歳の春、発
願して還俗。翌年、横浜に同志を糾
合して蓮華会を起された。

明治十七年、東京に進出して在家
仏教の模範教団、立正安国会(国柱
会の前身)を創立。宗風革新・祖道復
古の大義を唱え、純正日蓮主義を唱
導し、日本国体を開闢して、明治・
大正・昭和の三代にわたり、言論、
文書、芸術などを通じて多彩な活動
を展開。近代という新しい時代に
応じて、仏教の改革に取り組まれた。

田中智学先生は、護法護国の運動
に全身全霊を捧げたが、先生は晩年
事業の骨子として、

- 一、日蓮主義の対世間的唱導
- 二、日本国体の学的創唱
- 三、日蓮教学の式目成講
- 四、本尊式の奠定
- 五、妙宗大霊廟の創唱

著述の数は二百篇ちかく、組織宗
学・本化妙宗式目「日蓮主義教学大
観」、祖書註釈「本化聖典大辞林」
の刊行はじめ日刊新聞を約二十年間
発行するなど、興学に布教に経営に
おとろくべき精進力を発揮された。

昭和六年、身延祖廟に「立正」の
勅額下賜を期に、「祖廟中心・宗門
統一」をスローガンに身延登詣団を
おこされた。国柱会の主張の一つに
「全日蓮御門下各教団が遺制と各派
祖をこえて聖祖にかえり統合される
ことを念願して活動し、その晩には
国柱会の存在理由は解消するので祖
廟の御前で解散すべきものであり、
その日が早からんことを祈る」とい
うことがある。

本部講堂と有文館

現在の国柱会本部講堂は昭和四十
三年に落成、屋根は合掌を象徴して
いる。正堂宝殿には、佐渡始願の妙
法曼荼羅御本尊(四聖母命式)が奉
安されている。御宝壇は総檜づくり
の純日本式で、清浄の気が充ちてい
る。御聖日の法要はじめ、諸儀式が
厳修される。



法華経の教えを形に表わした妙宗大霊廟

武館(田中香浦館長)があり、近
所の青年や学童等の元気な声が響い
ている。

妙宗大霊廟

本部講堂の北側には芝生の庭があ
り、その奥の樹木に囲まれた着意池
の中に「妙宗大霊廟」が厳かに立っ
ている。

大霊廟は、田中智学先生の意匠設
計により、大正十五年夏に竣工、昭
和三年三月に竣工した。法華経の教
えを形にあらわしたお墓で、先生は
じめ同信同行、霊廟の主旨に賛同す
るすべての人々が、あらゆる差別を
超越して怨親平等一体となって安住
している。一つの塔にみなが一緒
に入る文字どおり「異体同心」を具
体化した「一塔合安」式が大きな特
色となっている。

大霊廟は、遺骨が納鎮されるカロ
ート(7.2メートルの正方形で、水面
下2.5メートル、水面上3メートル)
の上に三段の塔壇があり、塔壇の上
に宝塔が建てられており、地上から
宝塔の先端までは十メートル。百万
人の遺骨が納鎮される設計になっ
ている。

塔身の正面、金色さんぜんたる
「南無妙法蓮華経」は仏界を表わし、
塔座は九界を表徴しており、全体に
散華がなされ「十界成仏」の意匠と
なっている。塔身の左右の面には、
「如説修行異体同心」「不惜身命護持
正法」の文字がみえるが、法華経信
行者と大霊廟の精神が要約されてい
る。

霊廟の前庭の池畔の両側には「常
勤台」があり、参拝者による唱題給
仕など、常に回向供養がなされてい
る。不幸にして子孫が絶えるような
ことがあっても無縁になることはな
く、同信同行の至誠の唱題給仕によ
って、常に永遠に、供養がなされる
のである。

この大霊廟は、田中智学先生が、
「子(宗教活動)の卒業論文である
」といわれているが、宗教的、倫
理的、また社会的にも実に深い意義
があり、まさに理想のお墓といえる
だろう。現在、墓地問題が深刻化し
社会問題となっているが、一塔合安
の妙宗大霊廟がすべての解答を出し
ているように思われる。

For Your Travelife



軽快な店舗



ご存じですが、知って頂くJTBのお店。
旅のことならJTB。暮らしのあれこれもJTB。
お近くのJTBをぜひお気軽にご利用ください。

JTBのお店はフットワークが軽快です。

団体旅行やイベントのご計画はぜひお近くのJTBのお
店へお気軽にご一報ください。ベテランスタッフがすぐ
におうかがいします。プランニングや運営のお手伝いはJTB
がとりわけ得意とする分野です。

JTBのお店は電話が軽快です。

きっぷや航空券、宿泊のお申し込み、旅のご相談、お
問い合わせ…なんでも電話で承っています。お気軽にお
電話をください。
(全国の旅館、ホテルのご予約が近隣のJTBに電話1本で完了。お支
払い現地、カードOKという便利なシステム「たびがる」もあります。)

旅をもっと楽しくする品揃えも軽快です。

- 旅をワクワク実現する旅行券の分割前払いプラン(たびたび)
- トラベル&レジャーカード(YES JTBカード)
- 旅のライブ情報ブック(JTB時刻表)&(ガイドブック)
- いい旅を支える(国内旅行総合保険)&(海外旅行傷害保険)
- サインひとつでキャッシュの働き(トラベラーズチェック)

暮らしをもっと快適にする品揃えも軽快です。

- JTBのお店の人気ギフトアイテム
 - 旅を贈る(ギフト旅行券)(ギフト旅館券)(ギフトホテル券)
 - 使える便利は贈る(便利)。デザート共通商品券(ナイスショップ)
 - デリシャスなギフト。一流レストランお食事券(ナイスグルメ)
 - 日本と世界の美味を運りすぐって宅配(産地直送便)
 - 応じます。気分いい生活
 - レジャーから暮らしてカバーするJTBの保険(未来星)
 - ヨーロッパからキラキラのブランド品を直輸入(ユーポート)
 - 国内も海外も確かなお手伝い(JTBの引越)
- ※ご紹介したJTB店舗のレベルは一部支店ではお取り扱いしてい
ないものもあります。詳しくは、お近くのJTB各支店へお問い合わせください。

JTBのお店は親切が軽快です。

レジャーだろうとビジネスだろうと、ひとり旅でもグループ旅行でもハネム
ンでも、国内だって海外だって、乗り物、宿、訪問地など自由自在に組み
合わせて、あなたのご希望通りの旅づくりをお手伝いします。創業以来76
年のノウハウをベースに、旅のプロフェッショナルが皆さまの旅ごころを力
強くバックアップします。

JTBのお店は旅の品揃えが軽快です。

きっぷや宿泊などの旅のパーツご始まって、国内旅行「エース」、海外旅
行「ルック」・「バレット」・「ナヴィ」、海外からのお客様への旅「サンライズツアー」
など、主要ブランドのバック旅行をドカッと取り揃えています。旅ごころが芽
ぶいたら、お気軽に立ち寄り、ドゥッッッッッッッッッッッッッッッッッッッ
をどうぞ。

JTBのお店はインターネットが軽快です。

JTBのお店のパワフルなコンピュータシステムはJR、エアライン各社や、
全同の旅館、ホテル3,300軒をオンライン。瞬時のご予約やご案内をして
います。さらには国内300店、海外30都市を結ぶネットワークで、ホッホホ
の情報提供。一歩中へ入ると、あなたの旅ごころをガゼンとときめかせる。
ライブ情報ショップです。

暑中御見舞

平成二年盛夏



日蓮宗宗務院

管長	岩間 日勇	教務部長	石井 隆教
宗務総長	伊藤 通明	護法伝道部長	石川 浩徳
宗務副総長	佐藤 光春	現代宗教研究所長	石川 教張
総合企画部長	岩間 湛正	参	白部 健順
庶務部長	二宮 将泰	参	岡田 法順
財務部長	田中 恵康	日蓮宗新聞社社長	菊池 泰瑞

〒146 東京都大田区池上一丁目三十一番五
 電話 〇三(七五)一七(八一)一五
 FAX 〇三(七五)一七(八一)一八六

法華宗(本門流)宗務院

管長	久保木 日秀
宗務総長	川口 善教
教学部長	木村 日應
庶務部長	大塚 正信
教化部長	中村 宏龍
財務部長	芹澤 泰謙

〒170 東京都豊島区北大塚一丁目二番一四
 電話 〇三(九一)〇四(七五)五(代)
 FAX 〇三(九一)八七(九九)四

顕本法華宗宗務院

管長	古瀬 日宇
宗務総長	吉永 正晴
宗務次長	山田 信正
財務部長	飯澤 道宣
布教部長	山本 学人
教務部長	平田 浄應
社会部長	田島 敏義
庶務部長	島田 幸晴

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
 電話 〇七五(七九)一七(七一)一

法華宗(陣門流)宗務院

管長	水本 日穩
宗務総長	牧野 琢成
総務部長	土屋 善敬
教学部長	都築 哲信
教化部長	金原 戒雄
財務部長	江坂 隆俊

〒170 東京都豊島区巢鴨五丁目三五番一六
 電話 〇三(九一)八七(二九)〇
 FAX 〇三(五七)六〇(一一)一

本門佛立宗宗務本庁

講有	梶本 日裔
講尊	小山 日幹
宗務総長	井上 日慶
宗務副総長	齊藤 日敬

宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東堅町三〇番地
 電話 〇七五(四六)一一(一六)六(代)
 FAX 〇七五(四六)四四(五五)九

日蓮本宗宗務院

管長	嘉儀 日有
宗務総長	住友 顕一
教学部長	今村 要道
総務部長	今村 要道
財務部長	矢田 尚義

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
 電話 〇七五(七七)一三(三三)九〇

法華宗(真門流)宗務庁

管長	上田 日源	参	吉田 勝秀
宗務総長	吉田 研宏	参	上田 浩岳
総務部長	長鎌 泰信	教学主事	小島 玄城
教学部長	上嶋 智岳	教化主事	岩崎 峻暉
教化部長	左神 信学	財務主事	笹木 研秀
社会部長	蓑輪 溪玉	書記	矢放 真文
財務部長	小西 法明		

〒602 京都市上京区智慧光院通り五辻上ル紋屋町
 電話 〇七五(四四)一五(七六)二

本門法華宗宗務院

管長	中村 日宣
宗務総長	吉村 信尚
宗務部長	信隆 允忠
財務部長	山下 通雄
総務部長	藤井 宏長
庶務部長	飯田 信栄
教化部長	高田 誠亮
門連常任理事	木村 光紹

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
 妙蓮寺
 電話 〇七五(四五)一三(五二)七

宗教法人 国柱会

会長	田中 香浦
理事長	加倉井 清信
副理事長	中平 千三郎
門連常任理事	大橋 邦正

〒132 東京都江戸川区一之江六一一九一八
 電話 〇三(六五六)七一(一一)一(代)
 FAX 〇三(六五六)九九(八八)〇

日本山妙法寺

首座 上野 行量

〒542 大阪市中央区南船場一丁目三十一番一
 電話 〇六(二六)一三(三三)二六

京都日蓮聖人門下連合会

会長	中村 日宣
副会長	沖日 亨
理事長	松下 日肆
副理事長	藤田 尚慈

〒602 京都府京都市上京区寺ノ内通大宮東入
 堅樹院(京門連事務局)
 電話 〇七五(四三)一〇(四九)一



舞見御中署

平成2年盛夏

(順不同)

<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 新潟県三条市西本成寺一丁目二〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八</p> <p>賞 首 水 本 日 稔 執 事 長 真 保 行 宣 執 事 笹 原 壯 玄 執 事 西 山 英 仁 執 事 平 井 良 光 執 事 佐 古 弘 文</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七一一七 FAX 〇七五(七九)七二二六</p> <p>賞 主 古 瀬 日 宇 総 務 山 田 信 正 執 事 平 田 浄 應 執 事 三 坂 岳 應 執 事 津 村 乘 信 執 事 安 東 靖 弘</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 東京都大田区池上一丁目一一 電話 〇三(七五)二二三一一</p> <p>賞 首 田 中 日 淳</p>	<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(二)一〇一一 FAX 〇五五六(二)一〇九四</p> <p>法 主 岩 間 日 勇 総 務 藤 井 教 雄 役 職 員 一 同</p>
<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町二〇〇五一 電話 〇七五(四六)三三四六二一〇(代) FAX 〇七五(四六)三三四六五一一</p> <p>住 持 梶 本 日 裔 十九世講 有 事務局長 小 倉 徳 治 郎 信 徒 総 代</p>	<p>日蓮本宗 本山要法寺</p> <p>〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八 電話 〇七五(七七)三三三九〇</p> <p>賞 首 嘉 儀 日 有 執 事 長 住 友 顕 一 執 事 今 村 要 道 執 事 矢 田 尚 義</p>	<p>本門法華宗 大本山妙蓮寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八五 電話 〇七五(四五)一三三二二七</p> <p>賞 首 中 村 日 宣 執 事 長 松 下 日 肆 役 職 員 一 同</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 京都市京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇 電話 〇七五(四四)一五七六二二</p> <p>賞 主 上 田 日 源 執 事 長 上 田 浩 岳 執 事 小 島 玄 城 執 事 岩 崎 峻 暉 執 事 補 笹 木 研 秀 書 記 矢 放 真 文</p>
<p>日蓮宗大本山 北山本門寺</p> <p>〒418-01 静岡県富士宮市北山重須 電話 〇五四四(五八)一〇〇四</p> <p>賞 首 片 山 日 幹 執 事 長 田 中 慈 潮</p>	<p>日蓮大聖人御靈跡 日蓮宗大本山 本圀寺</p> <p>勅諭にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の靈跡</p> <p>〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六 電話 〇七五(五九)三九一九一</p> <p>賞 首 水 谷 日 諦 執 事 長 玉 田 学 雄</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>久遠成院日親上人御靈窟</p> <p>〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入 電話 〇七五(四一)四〇八〇八</p> <p>賞 首 沖 日 亨 執 事 長 山 田 一 光 本山土寺賞 原 光 司</p>	<p>立教開宗之靈地 出家得度之靈地</p> <p>日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇九(四)〇五二五</p> <p>別 当 小 林 日 芳</p>
<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大薮町九六 電話 〇七五(七七)二〇五六二</p> <p>賞 首 金 子 光 瑩 参 与 土 屋 学 周 同 新 井 智 清 同 山 田 完 修 同 藤 井 照 源 執 事 川 合 陽 雄 同 二 之 部 知 孝 同 田 村 宏 祐</p>	<p>日蓮宗本山 立本寺</p> <p>公元一九九〇年十月十三日 開山日像菩薩御遠忌奉修</p> <p>〒602 京都府京都市上京区北野一番町一〇七 電話 〇七五(四六)一六五一六</p> <p>賞 主 細 井 日 苑</p>	<p>日蓮宗本山 本法寺</p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p> <p>久遠成院日親上人御靈窟</p> <p>〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル 電話 〇七五(四四)一七九九七</p> <p>賞 首 金 山 寛 成</p>	<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 千葉県市川市中山二丁目十一 電話 〇四七三(三四)三四三三</p> <p>賞 首 長 瀬 日 還 参 与 関 倉 觀 康 同 小 井 俊 明 同 新 井 智 清 同 植 田 觀 泰 同 廣 野 觀 順 執 事 長 渡 辺 行 俊</p>

門連時報

大阪懇話会の総会が開催さる

平成二年度大阪日蓮門下懇話会総会並びに今年度行事について理事会を一月二十日、午後六時より大阪グランドホテルに於て開催した。

出席された理事は、日蓮宗伊丹栄彰理事長、顕本法華宗吉永正晴副理事長、国柱会麻田正広理事、日蓮本宗高橋勇夫理事、法華宗陣門流門谷光瑞理事、法華宗真門流長鎌泰信理事、本門法華宗信隆允忠理事、日蓮宗奥邸正寛理事、日蓮宗藤田文明理事、日蓮宗有光友信會計以上十名で種々検討された結果、来る五月十二日日蓮大聖人伊豆御法難の聖日をきして第三回総会を開催する事を決定した。

三月二十九日、午後六時より雲雷寺に於て理事会を開催し総会の案内その他の準備打合せ等種々懇談をして総会を待つのみとなった。

平成二年度五月十二日午後四時より、日蓮門下懇話会総会が雲雷寺にて開催された。伊丹理事長大導師の

もと御法難会報恩法味言上。国柱会麻田正広師司会のもとに、伊丹理事長、全国日蓮聖人門下連合会本部岩間湛正師の挨拶を頂き、座長に日蓮本宗高橋勇夫師を選び議事に入り、事業報告、会計報告、今後の方針、その他の順で議事が進められた。

特に今年度の事業に付いては十二月中旬頃に研修会を開催、講演に医学と宗教を考へる会のリーダーを選定し癌にまつわる人類の苦、病名告知、ターミナルケア、脳死、臓器移植、出産前の胎児の検診、老人医療の問題等を研修する事になり、何れも理事等に於て日時内容を検討する事を約束して議事を終了した。

午後五時より顕本法華宗蓮成寺御住職吉永正晴師に「日蓮門下のあゆみ」、未来への展望と題して講演を賜り午後六時より懇親会に入り、なごやかな内に意義ある第三回大阪日蓮門下懇話会の総会を無事終了した。

水本日穩観下御入山

六月二十一日、新貫首水本日穩観下が法華宗本山本成寺八十三世として法灯を継承された。

当日はあいにく雨に見舞われたが、早朝から山内塔頭寺院御機嫌奉



「開祖日蓮聖人御制戒」を御奉読される観下

伺に始まり、門中寺院・檀信徒のお目通りがあり、午前十一時、七十人ほどの門中寺院と二、三百人の檀信徒で構成された行列が赤門を出発。本堂向拝では牧野宗務総長・真保本山執事長がお迎えに上がり、御案内し「着座の儀」が行なわれた。朗々と流れる読経の中「法灯継承の儀」が行なわれ、「門祖日蓮聖人御制戒」を観下が御奉読された。

引き続き本堂で歓迎式が行なわれた。

宗務総長からの新貫首観下御紹介、布施宗会議長・兼古本山総代の歓迎の辞、更には内山三条市長、池上本門寺貫首田中淳観下、統合協議会代表、顕本法華宗管長古瀬日宇

観下、国柱会会長田中香浦先生から祝辞があった。

最後に日蓮観下は「私は立派でも器量も優れているわけでもなく、小さな信心を持って生き、それを少しでも大きくしたいと思つて生きてきただけです。教えに信念不動になれれば悟りの水が近づいてくるという言葉があります。私は七十年間、こつこつ生きてきて、たどり着くとこ

ろは信心の水、悟りの水であることにやっと気付きました。人の憂いを自分の憂いとし、人の痛みを自分の痛みとして明るく生きていきたい、それが私の願いです。」と御挨拶された。

この後、対面の間において「屠蘇の儀」更に客殿で祝宴となり、全国各地から訪れた一千人近い人々が新貫首観下の御入山をお祝いした。

比叡山で京都門連が開宗会

京都日蓮聖人門下連合会主催の開宗会が、四月二十六日比叡山にて奉

行された。

好天に恵まれたこの日、本山頂妙寺に集合、僧侶合わせて250名が、本堂にて法味言上、バス4台にて一路比叡山へ向かう。日本佛教根本道場比叡山延暦寺大講堂にて、御本尊十界曼陀羅(日等聖人筆・頂妙寺住持)を掲げ、小湊誕生寺より奉安された日蓮聖人御木像(大講堂常任)を安置、本門法華宗管長大本山妙蓮寺貫首中村日宣観下を大導師、京都門連理事長松下日肆僧正並びに、副理事長藤田尚慈僧正が協導師に、本門法華宗青年僧侶が式衆に、又、日蓮宗京都雅楽会出仕のもと、737年前



「開宗会」(於：比叡山・平成2年4/28)

京都門連降誕会が奉行される

寒さ厳しき2月16日、今を去る76年の昔、御生誕あそばされた、日蓮聖人を慶讃し、御報恩に謝すべく、降誕会が本門法華宗大本山妙蓮寺にて奉行された。

中村日宣貫首大導師のもと、松下日肆理事長、藤田尚慈副理事長が協導師に、本門法華宗青年僧侶、日蓮宗京都雅楽会出仕にて、僧侶約20

0人が参詣し御降誕会に御報恩の誠を捧げた。法要後本山本門法華宗貫首金山寛成観下による「甘露のなみだ」と題した講話があり、参詣の善男善女は、講話の如く甘露の涙とともに、祖師の心に触れていた。

御供養に暖かいうどんを戴き、無事降誕会が終了した。

紙の紹介

法華宗陣門流「宝塔」



「お彼岸のしおり」

○布教誌「宝塔」は昭和四十四年三月に宗内檀信徒向けとして第一集が発行されて以来、年三、四回のペースで発行、本年お盆号をもって、第七十五集を数えるに至った。

○誌題の「宝塔」は本宗本山本成寺院号によるもので、正和二年(一一三三)開山日印聖人が朗師より長久山宝塔院本成寺の寺号を賜った。その院号「宝塔」にちなんで命名されたものである。

○当初はA五版の冊子から始まり、第二十五集より現在の広報紙スタイルと改められた。表紙にカラーを使用したのは昭和五十六年の第四十集が始まりであった。

○「宝塔」の編集方針としては、とかく布教誌はむづかしい教義が主となるところを、その視点を大衆性・ニュース性・ローカル性などを取り入れ、信徒の身近な布教誌とすることをねらいとしている。

○最後に本誌の他に「お彼岸のしおり」も刊行されている。先号は五つの修行(五種法師)について、イラスト入りで年少者にもわかるように書かれている。

昭和天皇御宸筆「立正」金箔額入

昭和三十九年より下賜された「立正」額(実物大四分の一に縮尺複製したものです。)

皆様のご家庭へ特別頒布

頒布金額 色紙共 八千五百円(送料共)

(残部僅少)

立正

お申し込みは 日蓮宗新聞社 電話 03-755-5271 FAX 03-753-7028 千146 東京都大田区池上3-16-9

